

# 探訪 新ライフスタイル

伸び悩む消費支出の打開には、積極的に消費意欲を刺激する策が不可欠だ。1日当たりの消費支出額で見ると、最近では週末は減り、平日が増える傾向にある。働き方改革の影響で平日休みの人が増え、平日への消費シフトが加速しているからだ。これに伴い、働く女性性が仕事帰りに毎日立ち寄れる飲食店を求める声も多い。社会全体に閉塞感が充満する中、身近な日常の中で人々と交流する楽しさは

## 女性集う夜の憩いの場、大阪の福島に



女性たちもふくまる通りで日常の夜を楽しむ

# ライフスタイル

欠かせない。「女性」「日5月、大阪市福島区の福島常」「集える飲食店」には5丁目と7丁目位置する大きなビジネスチャンスが

場所新たなスポットが誕生した。駐車場として使われていた場所に、スーパーマーケットとホテルが建っ

た。下層階には通りに面してテラス席がある小さな飲食店が並び、大阪環状線高架下に元来あった飲食店と1つに溶け合った空間となった。福島5丁目と7丁目

ヨスやスペインのお酒に囲まれ、ピンチヨスの串の先に隠された当たりくじを引くと、自分たちもしくは他の人にピンチヨスやお酒をプレゼントできるなど、お

食店街が形成されてきた。グルテンフリーのお好み焼き、イタリア食堂、フランス料理のおつまみとワインの店、バーやカフェなど、オシャレで個性的な飲食店をほしごするのが楽しい。行列の絶えない焼きたてパンのパネ・ポルチーニは金曜、土曜日は午前0時まで営業するなど、夜の街で女性好みの店舗が充実するのは珍しい。大阪は混沌が面白いと言われるが、そのベースはほとんどが男性視線だ。しかし、福島では女性視線でのラビリンズ文化がきらめいていた。

## 高架下×バル、おしゃれ空間

から「ふくまる通り57」と命名され、梅田の隣駅に女性がかぞってやってくるおいしい街に変身した。

客同士が触れ合えるきっかけづくりも面白い。スーパーの2階は店内で購入した肉を鉄板で焼いて食べられるコーナーもあり、女性1人でも居心地のいいおしゃれな雰囲気だ。

スーパーの阪急オアシス福島ふくまる通り57店では「食べるを自由に」をコンセプトに、街路とスーパーとの融合を実現した。1階はイトインコーナーで食べられる食事やスイーツ、酒のおつまみなどを充実。通りに面した場所にはスペインバルの「mercA PASEO(メルカパセオ)」が誕生した。20種類以上ある150円のピンチ

メルカパセオを経営する、さちりホールディングスの平川昌紀社長は「スペインのバル文化を、高架街として発展した福島の面として演出し、女性客同士や近隣住民に来店していただいている」と語った。

ここ数年、福島駅かいわいでは小振りで開放的な飲

とはいえ、近隣に勤める女性が集う都会のオアシスづくりは、まだまだ未成熟だ。日常の中で大人の女性が集い、憩い、楽しむ日常のハレの場づくりはキーファクターになるだろう。

いでは小振りで開放的な飲

ここ数年、福島駅かいわいでは小振りで開放的な飲

(商い創造研究所代表 松本大地)